



令和元年度
神奈川県立体育センター研究報告書

神奈川県における
障がいのある方の運動・スポーツ実施率調査
(2年継続研究の1年目)

神奈川県立体育センター
事業部指導研究課調査研究班

目 次

【研究テーマ設定の理由】	1
【調査目的】	1
【調査対象】	1
【抽出方法】	1
【調査方法】	1
【調査体制】	1
【調査費用】	1
【調査予定】	2
【調査の背景】	3
1 障がい者スポーツの推進拠点機能を備えた施設を目指して	3
2 先行調査について	5
【分析の方向性】	9
【調査票】	12
【引用・参考文献】	16

神奈川県における障がいのある方の運動・スポーツ実施率調査

調査研究班 佐藤栄嗣 小谷昭彦 内藤 誠 久保寺忠夫 鈴木秀夫

【研究テーマ設定の理由】

神奈川県では、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことができる地域社会を実現していくため、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、県民をはじめ、市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働し、スポーツを推進するよう、本県が総合的かつ計画的に取り組む施策を示した「神奈川県スポーツ推進計画」を策定し（表1）、スポーツの振興に取り組んでいる。人生100歳時代を迎える中で、スポーツは、心身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、人と人との交流の促進や未病の改善につながるとともに、いのち輝く健康で活力に満ちた地域社会の実現や、県民の誰もがともに生きる社会の実現に不可欠である。そこで、本県では、2015年1月に「かながわパラスポーツ推進宣言」を發表し、すべての人が自分の運動機能等に応じて、生涯にわたりスポーツを「する」「観る」「支える」ことができるよう、「かながわパラスポーツ」を推進している。こうした中、今後、本県が障がい者スポーツを推進していくためには、障がいのある方のスポーツ実施率や実施頻度（回数）等の量的データに加え、障がいの種類や活動場所等の質的データも把握して、障がい者スポーツ推進事業の構築及び見直しを行っていく必要があると考える。

【調査目的】

障がいのある方の運動・スポーツ実施率向上のための基礎的調査として、神奈川県内における障がいのある方の運動・スポーツの実施状況及び特徴を明らかにし、本県のスポーツ推進の新たな指標として提言するとともに、県立スポーツセンターが障がい者スポーツ推進事業を効果的に運営するための基礎資料とする。

【調査対象】

神奈川県内の障害者手帳保有者^{※1}

326名(1,086名^{※2})

総数 417,672名（2017年）神奈川県福祉統計（平成29年度）より

※1 内訳

身体障害者手帳（267,576名）、療育手帳（70,737名）及び精神障害者保健福祉手帳（79,359名）交付数

※2 回収率修正標本数（調査票配付数）

【抽出方法】

層化二段有意抽出

【調査方法】

郵送自計式

【調査体制】

神奈川県立体育センター（調査主体）

調査企画、分析、報告書作成

【調査費用】

郵送費等 200,000円

【調査予定】

- (1) 2019年4月～6月 実施要領、調査票、県統計審議会資料作成
- (2) 2019年7月～2020年3月 県統計審議会、総務大臣届出、県公報手続き
- (3) 2020年4月 県公報登載
- (4) 2020年5月 実査
- (5) 2020年7月～9月 集計・分析

表1 国及び神奈川県のス​​ポーツ政策について

年	国	神奈川県
2011	スポーツ基本法	
2012	スポーツ基本計画	
2015	スポーツ庁 設立	かながわパラスポーツ推進宣言
2016		スポーツ局 設立
2017	第2期スポーツ基本計画	神奈川県スポーツ推進条例 神奈川県スポーツ推進計画

【調査の背景】

1 障がい者スポーツの推進拠点機能を備えた施設を目指して

(1) 障がい者スポーツの推進拠点

体育センターは昭和43年に設置され、約50年が経過する中で施設・設備の老朽化が進んでいる。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際的なスポーツイベントを控え、県民のスポーツに対する関心の高まりが期待されるため、2020（令和2）年4月供用開始に向け再整備中である（表2、図1）。再整備後は、県立スポーツセンターに名称を変更し、障がい者スポーツの推進拠点としてもスタートする予定である。

表2 神奈川県立体育センター再整備計画における主な施設の概要

名称	新
1 本館棟	新築（地上7階、延床面積約15,600m ² を想定） 総合教育センター及び体育センターの研修・研究、管理機能を集約
2 スポーツアリーナ2	新築（地上2階、延床面積約14,900m ² を想定） パラスポーツの活動拠点となる第2アリーナや多目的パラスポーツ練習場 屋内50mプール 専門競技種目（ボクシング、フェンシング、ウエイトリフティング）の練習場
3 宿泊棟	新築（地上4階、延床面積約3,300m ² を想定） 全室バリアフリーの宿泊棟、食堂を併設
4 グリーンハウス(改修)	歴史的価値を有する外観を保全 体育センターの機能の一部を担う
5 テニスコート(改修)	コート(8面)砂入り人工芝 夜間照明設備、更衣室
6 陸上競技場(改築)	メインスタンド改築 バックスタンド(芝生)の一部を階段式スタンドに改修
7 スポーツアリーナ(改修)	空調設備、給排水設備を改修
8 球技場・補助競技場(改修)	球技場2面(クレー、天然芝)のうち、クレー球技場を人工芝化 補助競技場の走路を全天候型舗装、インフィールドを人工芝化、夜間照明設備を整備

神奈川県立体育センターウェブサイト（2018）より作成

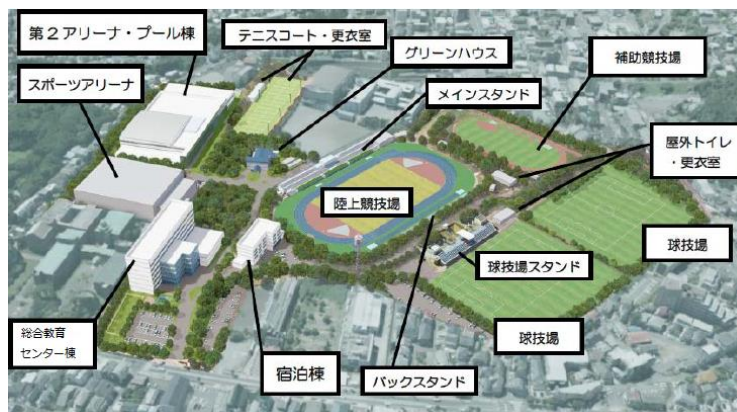


図1 神奈川県立体育センター再整備計画イメージ: 神奈川県立体育センターウェブサイト(2018)

(2) スポーツ推進計画の目標を達成するために

神奈川県では、2017年のスポーツ推進条例を基に、スポーツ推進計画を策定し、スポーツ推進に取り組んでいる。計画の中で、施策の方向性として、障がい者がスポーツに関心を持ち、自らの興味・関心・適性等に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことのできる社会を目指していると示されている。目標年度は、当面取り組む施策、2020（令和2）年度、全体、2025（令和7）年度に設定されている。

障がい者がスポーツに親しむ機会の拡大を図るための達成度の指標として、「県障害者スポーツ大会参加者数」、障がい者がスポーツに参加しやすい環境づくりを図るための達成度の指標として、「県障害者スポーツサポーター養成数」が挙げられている。

それぞれの指標について2018年度までの年次推移を示した（図2、図3）。図2では、全体参加者数の減少傾向がみられる。他方、図3の累積数は右肩上がりであるが、年度毎の養成数は減少し続けている。

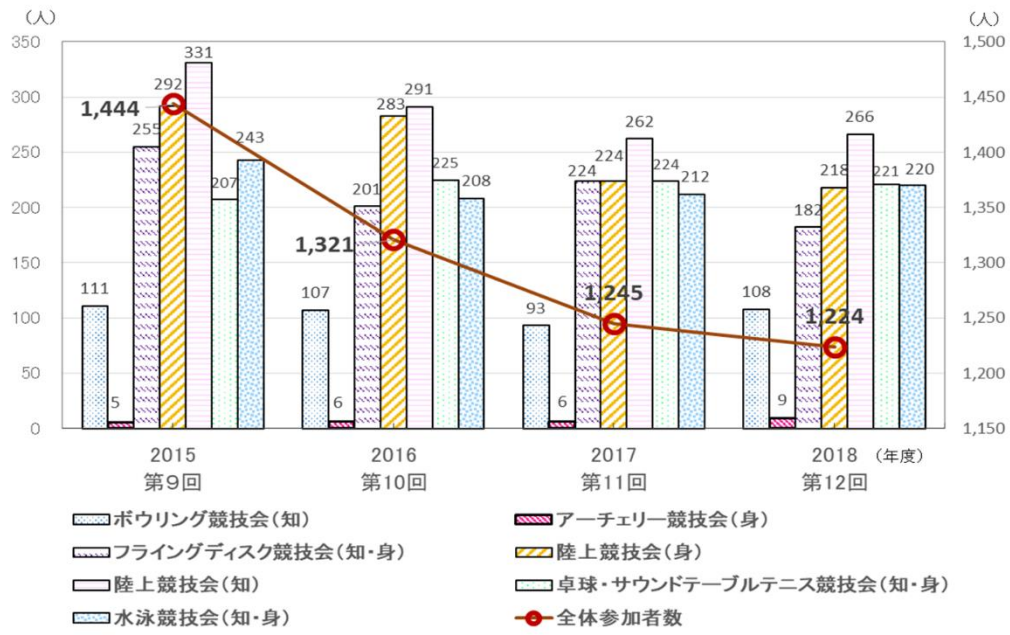


図2 神奈川県障害者スポーツ大会参加者数年次推移
：県スポーツ局スポーツ課資料（2018）より作成

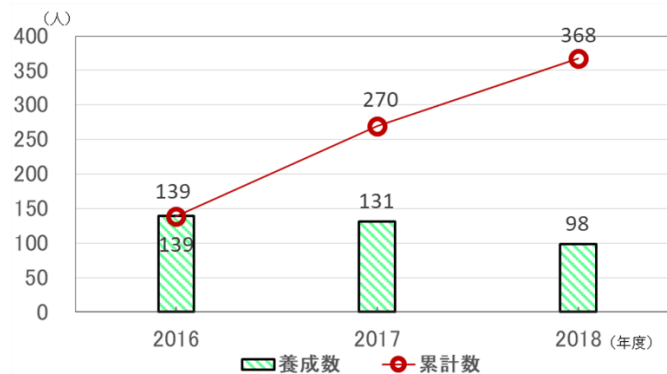


図3 障害者スポーツサポーター養成数年次推移
：県スポーツ局スポーツ課資料（2018）より作成

現状の2つの指標では、障がいのある方を取り巻く環境面の把握に留まってしまう。日常的に運動・スポーツに親しみ、運動・スポーツを楽しむことのできる社会を目指すためには、「障がいのある方の運動・スポーツ実施率」をできるだけ把握する必要があると考える。

年齢や性別に加え、障がいの種類や特性により、実施率の差を明らかにし、課題を抽出できれば、新たな施策の検討や見直しを図れる。さらに、障がいのある方の運動・スポーツ実施率の向上は、運動によって未病を改善し、健康寿命の延伸や運動・スポーツの場での交流を通じて、ともに生きる社会の醸成に繋がるであろう。

現在、障がいのある方の運動・スポーツ実施率を調査しているのは、国及び東京都のみである。両者共に調査対象は、外部委託業者に事前ウェブ登録した市場モニターであり、その中からの抽出である。モニター登録時の個人情報（居住地、障がいの有無等）については、すべて自己申告であるため、調査の信頼性は乏しい（表3）。

そこで、神奈川県では障がいのある方の運動・スポーツ実施状況を、より正確に把握するため、県内の各障がい者当事者団体と協力し、障害者手帳保有者に調査票を配付する方法で調査を実施する。

表3 インターネットを用いた随意回答による調査の特徴

	メリット	デメリット	向いている事例	向いていない事例
随意回答による調査	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間で結果が得られる。 ・送料やデータ入力が必要で費用を少なく抑えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に報告を求めるものではないので、匿名で複数回の回答が可能となったり、属性情報を偽ることが容易なため、<u>正確な結果とは言えない。</u>そのため<u>統計調査とは言えず、参考資料にとどまる。</u>（県民の意見、県内〇〇の平均といった扱いはできない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのテーマカラーの投票や動物の名前の募集など。 ・広報物等への意見・感想。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>県民の基礎資料としての県民意識や実態の把握。</u>

神奈川県立統計センター資料より作成

2 先行調査について

前述した東京都の調査は、都内に居住する18歳以上の障がいのある方のスポーツに関する意識を調査し、「東京都スポーツ推進総合計画」（2018年3月）に達成指標として掲げる「障がいのある都民（18歳以上）の週に1日以上スポーツ実施率（2021年までに40%）」の達成状況等を把握することを目的として、「障害者のスポーツに関する意識調査」を2018年6月に行った。1年間に実施したスポーツ・運動の実施頻度は、「週に1日以上実施」32.4%、「週に1日未満実施」11.0%、「実施しているが頻度不明」6.8%、「実施していない」49.9%であった（図4）。一方、スポーツ庁が全国の障がい児・者を対象に実施した調査では、成人の週1日以上の実施者は20.8%となっている（図5）。国及び東京都のスポーツ実施頻度尺度を揃えて比較すると、東京都のスポーツ実施率が国よりも高い傾向がみられる（図6）。

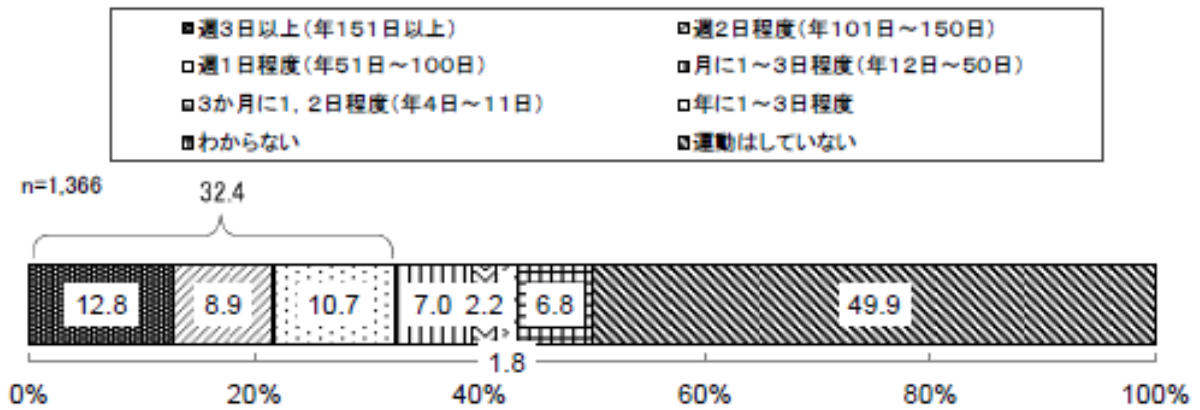


図4 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数（東京都）
 :東京都オリンピック・パラリンピック準備局「障害者のスポーツに関する意識調査」(2018)

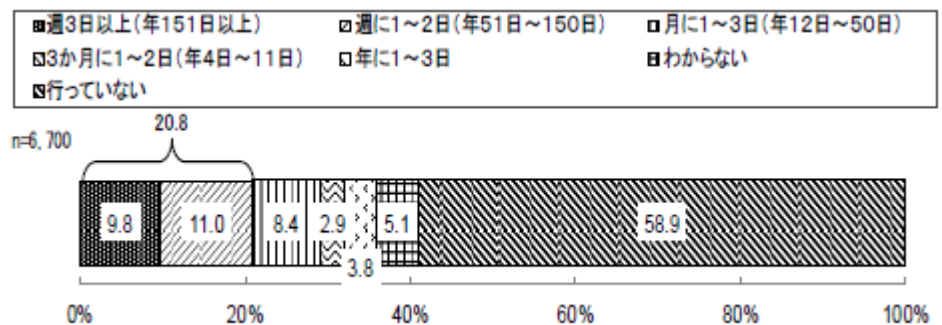


図5 障害者スポーツ・レクリエーション実施率（スポーツ庁）
 :スポーツ庁委託事業、笹川スポーツ財団「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」(2018)

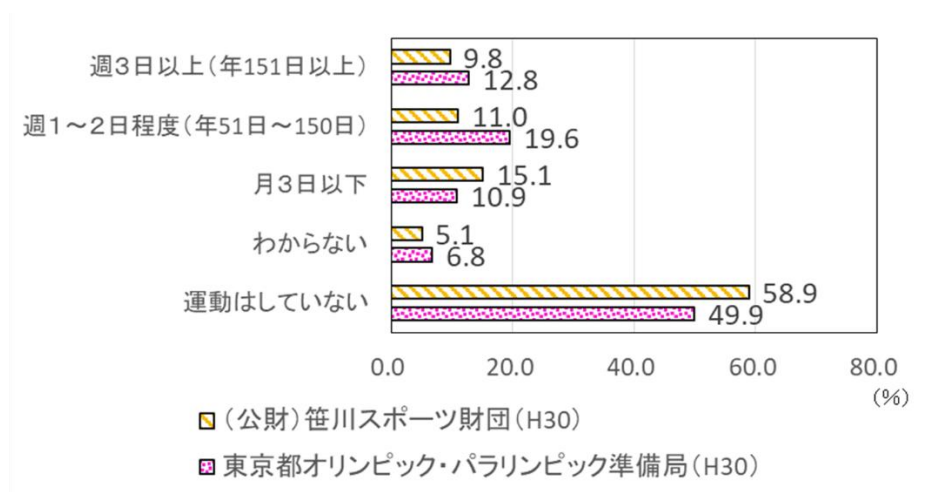


図6 国及び東京都の実施率調査比較
 :笹川スポーツ財団「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」(2018)及び東京都オリンピック・パラリンピック準備局「障害者のスポーツに関する意識調査報告書」(2018)より作成

表4は、スポーツ庁実施調査で、成人の障がいのある方が過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション種目の内訳を障がい種8区分別に示している。いずれの区分においても「散歩（ぶらぶら歩き）」が最も多く、次いで「ウォーキング」、「体操（ラジオ体操など）」が上位となっている。その他、従来からリハビリテーションとしても活用される「水泳」や「水中歩行」といった水中運動への参加が特徴である。さらに「ジョギング・ランニング」の実施率も高く、視覚障がい者を補助する伴走者の役割が重要となっている。

表4 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション（障害種別・成人：N=2,191）

	要車椅子必 肢体不自		要車椅子不 肢体不自		視覚障 害		聴覚障 害		知的障 害		発達障 害		精神障 害		その他 (音声言 語や内 部障害 を含 める)	
	N=141	%	N=520	%	N=219	%	N=253	%	N=190	%	N=161	%	N=616	%	N=427	%
1	散歩(ぶらぶら歩き)	22.0	散歩(ぶらぶら歩き)	41.0	散歩(ぶらぶら歩き)	37.9	散歩(ぶらぶら歩き)	36.4	散歩(ぶらぶら歩き)	45.8	散歩(ぶらぶら歩き)	39.8	散歩(ぶらぶら歩き)	45.0	散歩(ぶらぶら歩き)	46.8
2	キャッチボール	14.9	ウォーキング	26.5	ウォーキング	33.8	ウォーキング	31.2	ウォーキング	24.7	ウォーキング	28.6	ウォーキング	36.0	ウォーキング	35.4
3	ウォーキング	14.9	水泳	13.3	水泳	12.8	体操(ラジオ体操など)	10.7	水泳	24.2	水泳	18.0	水泳	14.4	体操(ラジオ体操など)	11.9
4	水中歩行	8.5	水中歩行	12.3	体操(ラジオ体操など)	10.5	ジョギング・ランニング	9.9	体操(ラジオ体操など)	11.6	体操(ラジオ体操など)	14.9	体操(ラジオ体操など)	14.0	水泳	10.1
5	ふうせんバレー	7.8	体操(ラジオ体操など)	10.6	ジョギング・ランニング	10.0	水泳	9.9	ボウリング	10.0	ジョギング・ランニング	11.2	ジョギング・ランニング	12.8	ハイキング	7.3

スポーツ庁「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」(2016)より作成

神奈川県では、障がいのある方の運動・スポーツ実施率調査に先行して、障がいのある方の公共スポーツ施設利用状況調査(2018)を実施した。障がいのある方の施設利用割合は、健常者と比較すると健常者の1.3%と低く、障がいのある方のスポーツ実施率が、非常に低いのではないかと推察される(図7)。また、表5は、神奈川県において障がいのある方が公共スポーツ施設で実施した種目の内訳を示した。「水泳」、「水中歩行」、「筋力トレーニング」、「有酸素運動」等、一人でも実施できる種目が上位となっていた。さらに、障がいのある方の利用が多かったプールと体育館の利用条件として、プールでは、「介助者同伴」が61.7%と最も高く(図8)、体育館では「床面が損傷する危険のない競技を行う」が43.9%であった(図9)。施設や実施する種目によっては、健常者とは違い一人で気軽にスポーツをするには、制約を伴う現状が明らかとなっている。

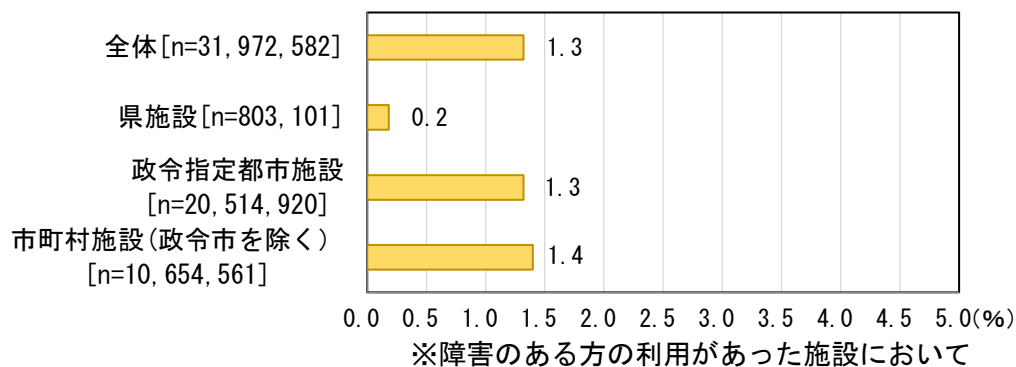


図7 平成28年度障がいのある方の公共スポーツ施設利用割合(神奈川県)
: 神奈川県立体育センター「神奈川県における障害者の公共スポーツ施設利用状況調査」(2018)

表5 障がいのある方の実施種目（神奈川県）

全体 (n=260)			
順位	実施種目名	回答施設数	実施率 (%)
1	水泳	68	26.2
2	卓球	60	23.1
3	水中歩行	57	21.9
4	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	48	18.5
5	筋力トレーニング（マシントレーニング）	39	15.0
5	有酸素運動（エアロバイク・ランニングマシンなど）	39	15.0
7	筋力トレーニング（自重・ダンベル・バーベルトレーニング）	28	10.8
7	テニス（軟式テニスを含む）	28	10.8
9	その他	27	10.4
10	運動会・レクリエーション大会	25	9.6

神奈川県立体育センター「神奈川県における障害者の公共スポーツ施設利用状況調査」（2018）

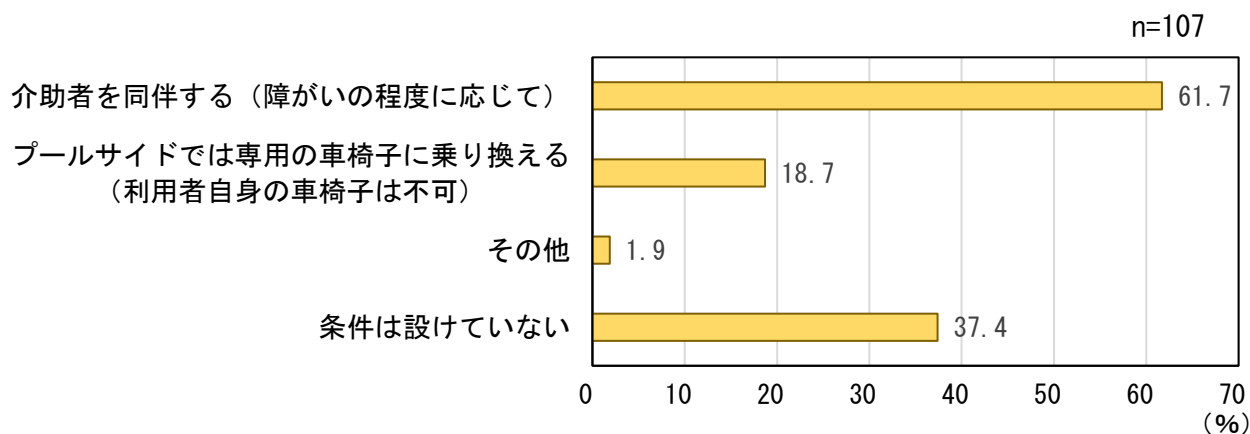


図8 障害のある方のプール利用条件（神奈川県全体）

：神奈川県立体育センター「神奈川県における障害者の公共スポーツ施設利用状況調査」（2018）

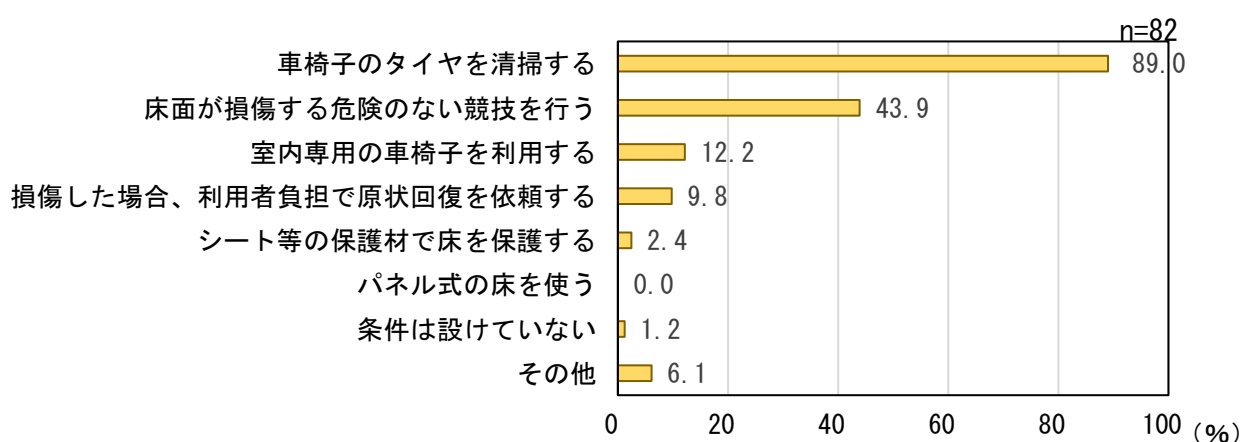


図9 車椅子の方の体育館利用条件詳細（神奈川県全体）

：神奈川県立体育センター「神奈川県における障害者の公共スポーツ施設利用状況調査」（2018）

【分析の方向性】

本調査の質問項目は、個人属性及び運動・スポーツの実施頻度（回数）等の量的データ、活動場所や実施・非実施の理由、実施の希望等の質的データを得られるよう設定した。調査票の分量はA4用紙1枚（両面）程度とし、回答者の負担の軽減と回収率向上を目指した。

集計は、実施率等の単純集計に加え、個人属性と各調査項目のクロス集計予定表（表6）により、個人属性等の違いによる運動・スポーツ実施状況の差を明らかにする（図10～14[※]）。属性による特徴を把握できれば、各事業の企画や見直しの際に、狙いとする属性集団に応じた、より効果的・効率的な魅力溢れる事業の展開に繋がるであろう。

表6 神奈川県における障がいのある方の運動・スポーツ実施率調査クロス集計予定表

		問1					問2						
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7
		年齢	性別	障がいの種類	障害者手帳の種類	発症年齢	運動・スポーツの実施有無	運動・スポーツの実施種類	運動・スポーツの実施頻度	運動・スポーツの実施場所	運動・スポーツの実施理由	運動・スポーツの実施希望	運動・スポーツの非実施理由
問1	1-1	年齢					○	○	○		○	○	○
	1-2	性別								○			○
	1-3	障がいの種類					○	○	○	○	○	○	○
	1-4	障害者手帳の種類					○	○	○	○	○	○	○
	1-5	発症年齢					○					○	○
問2	2-1	運動・スポーツの実施有無											
	2-2	運動・スポーツの実施種類							○	○	○		
	2-3	運動・スポーツの実施頻度								○			
	2-4	運動・スポーツの実施場所											
	2-5	運動・スポーツの実施理由											
	2-6	運動・スポーツの実施希望											○
	2-7	運動・スポーツの非実施理由											

※図10～14の数字はすべてダミーです。

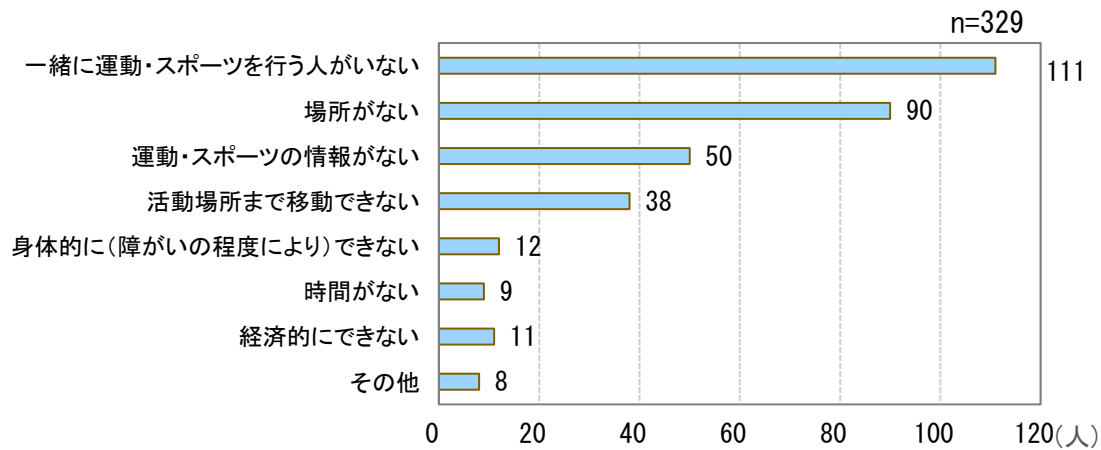


図 10 例 1 運動・スポーツを行っていない理由

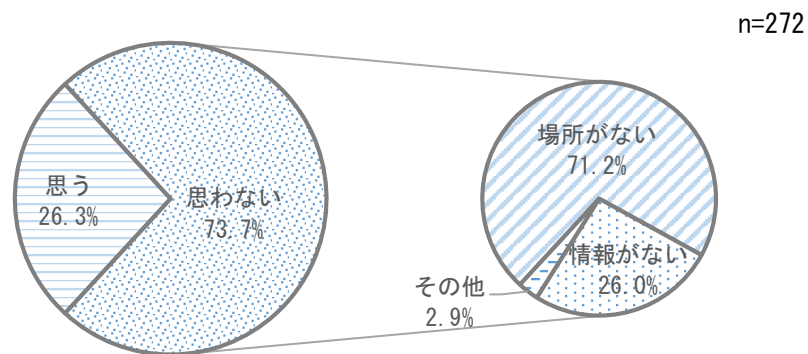


図 11 例 2 運動・スポーツ非実施者の実施希望有無及び理由

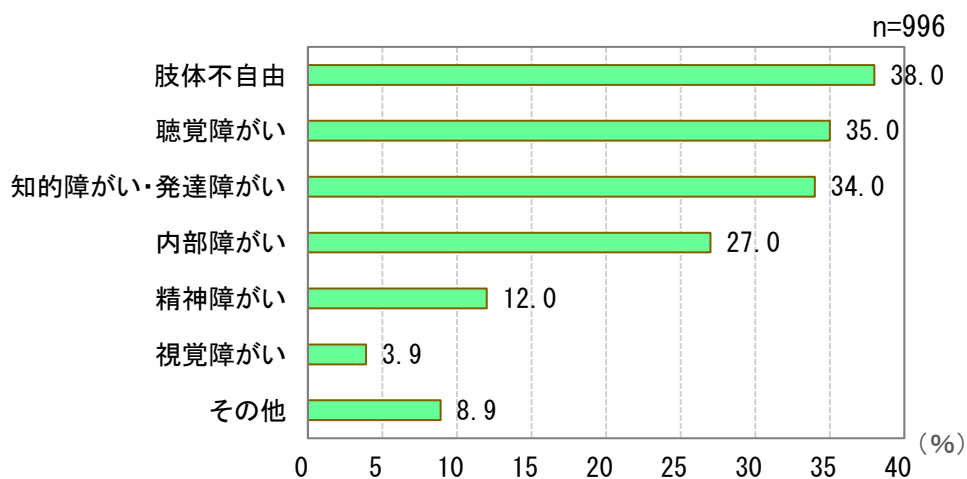


図 12 例 3 運動・スポーツ実施率 [障がいの種類別]

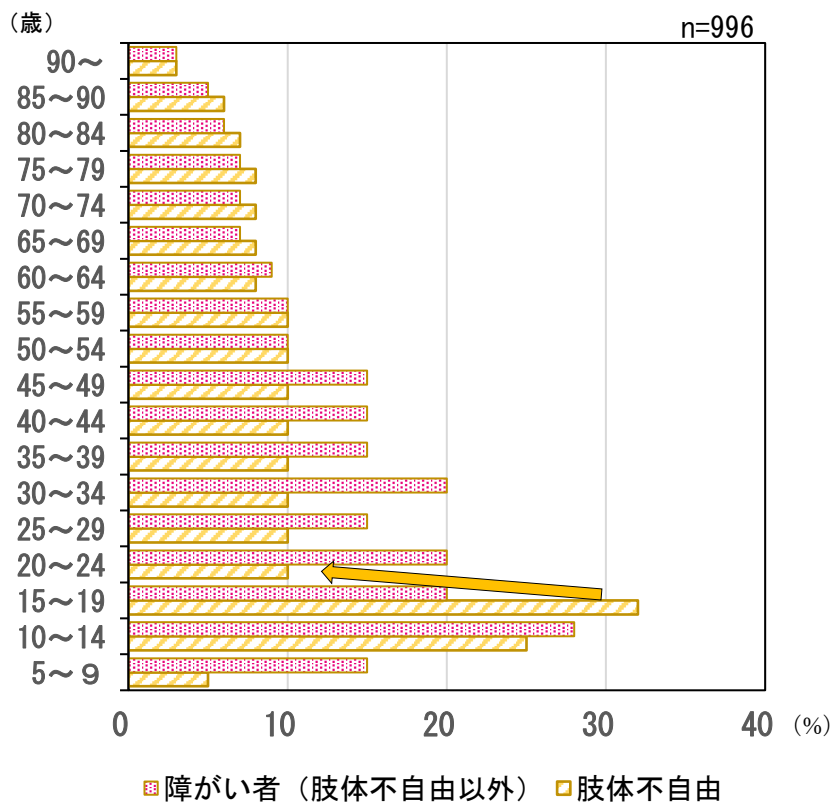


図 13 例 4 運動・スポーツ実施率 [障がいの種類別、年齢別]

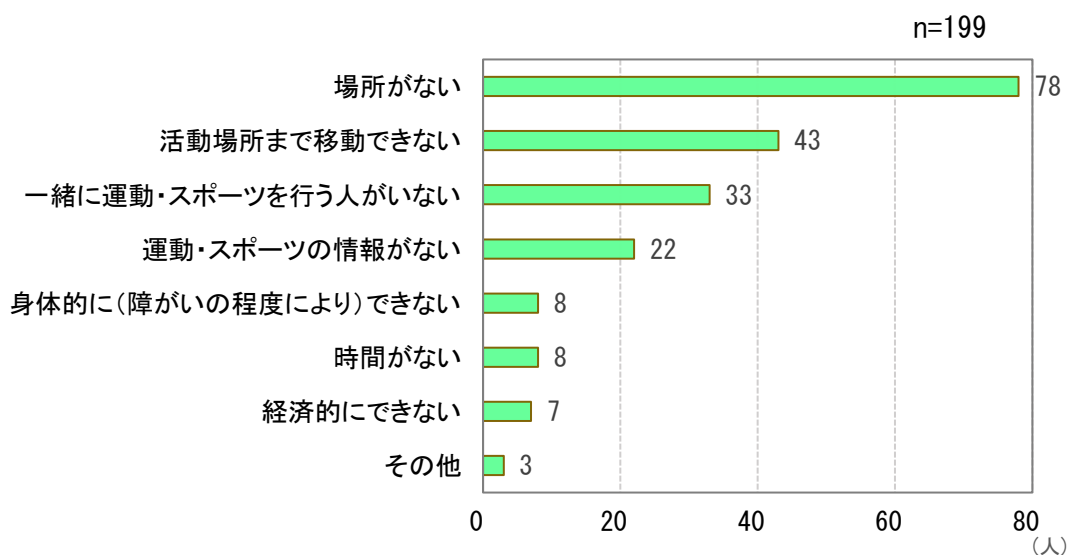


図 14 例 5 運動・スポーツを行っていない理由 [肢体不自由、年齢別 (25 歳～30 歳)]

【調査票】



神奈川県における障がいのある方の運動・スポーツ実施率調査

当センターの事業につきましては、日頃格別の御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、神奈川県内の障がいのある方の運動・スポーツ実施状況について把握し、本県の障がい者スポーツを推進するための基礎資料とさせていただくために実施します。

つきましては、お忙しいところお手数をお掛けしますが、何卒御協力をお願いします。

御記入いただきました調査票は、令和2年6月23日（火曜日）までに郵送により御回答くださるようお願いいたします。

なお、本調査は、神奈川県統計調査条例（令和 年神奈川県条例第 号）に基づく統計調査として実施するものであり、統計目的以外には用いないことを申し添えます。

本調査の結果は、令和3年3月頃、当センターウェブサイトで公表する予定です。

問い合わせ先

事業部指導研究課 佐藤、小谷

電話 (0466) 81-5612 (直通)

ファクシミリ (0466) 83-4622 (共用)

電子メール t-center.kenkyu.83um@pref.kanagawa.jp

かながわけん しょう かた うんどう じっしりつちようさ
 神奈川県における 障 がいのある方の運動・スポーツ*実施率調査

※運動・スポーツには、リハビリテーションを含みます。

問1 あなた自身についてお伺いします。

問1-1 あなたの年齢をお答えください。

[] 歳

問1-2 あなたの性別をお答えください。(どちらかに○印)

1 男 2 女

問1-3 あなたの障 がいの種類をお答えください。(該当するものすべてに○印)

1 視覚障がい	5 知的障がい・発達障がい
2 聴覚障がい	6 精神障がい
3 肢体不自由	7 その他 [具体的に
4 内部障がい	8 わからない

問1-4 あなたの障 害者手帳の種類をお答えください。(該当するものすべてに○印)

1 身体障 害者手帳 1 級	8 療 育手帳 A-2 (重度)
2 身体障 害者手帳 2 級	9 療 育手帳 B-1 (中度)
3 身体障 害者手帳 3 級	10 療 育手帳 B-2 (軽度)
4 身体障 害者手帳 4 級	11 精神障 害者保健福祉手帳 1 級
5 身体障 害者手帳 5 級	12 精神障 害者保健福祉手帳 2 級
6 身体障 害者手帳 6 級	13 精神障 害者保健福祉手帳 3 級
7 療 育手帳 A-1 (最重度)	14 障 害者手帳は持っていない

問1-5 あなたは障 害者手帳を何歳で取得しましたか。

複数の障 がいのある方は、最初に障 害者手帳を取得した年齢をお答えください。

1 出生時 2 [] 歳の時

問2 あなたの運動・スポーツへの興味・関心及び実施状況についてお伺いします。

問2-1 あなたは昨年度(2019年4月から2020年3月まで)に運動・スポーツを行っていましたか。(どちらかに○印)

1 行っていた → 問2-2から問2-5までと問2-8をお答えください。
 2 行っていない → 問2-6から問2-8までをお答えください。

問2-2 あなたは昨年度にどのような運動・スポーツを行っていましたか。(該当するものすべてに○印)

(1) 泳ぐ・走る・歩くなど

1 水泳	6 ジョギング・ランニング
2 水中歩行	7 陸上競技
3 アクアエクササイズ	8 有酸素運動 (エアロバイク・ランニングマシンなど)
4 ウォーキング (ノルディックを含む)	
5 散歩 (ぶらぶら歩き)	

(2) トレーニング・体操・ダンスなど

9 筋力トレーニング (マシン・バーベルトレーニングなど)	12 体操 (軽い体操・ラジオ体操など)
10 筋力トレーニング (腕立て伏せ・腹筋・背筋など)	13 エアロビクダンス
11 ヨーガ	14 ダンス (社交ダンス・フォークダンス・フラダンスなど)
	15 その他 [具体的に]

(3) 球技やチームスポーツ、武道など

16 アーチERY	28 弓道
17 グラウンドゴルフ	29 柔道
18 サッカー	30 太極拳
19 卓球	31 車いすテニス
20 テニス (軟式テニスを含む)	32 車いすバスケットボール
21 バスケットボール	33 卓球バレー
22 バドミントン	34 ふうせんバレー
23 バレーボール (ソフトバレーボールを含む)	35 ブラインドサッカー
24 フットサル	36 ボーリング
25 フライングディスク	37 ボッチャ
26 野球・ソフトボール (キャッチボールを含む)	38 運動会・レクリエーション大会
27 剣道	39 その他 [具体的に]

問2-3 あなたは昨年度に運動・スポーツをどれくらいの頻度(回数)で行っていましたか。(○印は1つ)

1 週3日以上 (年151日以上)	5 3か月に1日か2日程度 (年4日から11日)
2 週2日程度 (年101日から150日)	6 年に1日から3日程度
3 週1日程度 (年51日から100日)	
4 月に1日から3日程度 (年12日から50日)	

問2-4 あなたは昨年度に運動・スポーツをどこで実施しましたか。(該当するものすべてに○印)

1 自宅	8 特別支援学校の体育施設
2 道路や遊歩道	9 職場のスポーツ施設
3 公園や広場	10 福祉施設
4 民間のスポーツ施設 (スポーツジムなど)	11 医療機関
5 公共のスポーツ施設 (障がい者専用施設)	12 山・川・海
6 公共のスポーツ施設 (障がい者専用施設以外)	13 公民館
7 小学校・中学校・高等学校の体育施設	14 その他 [具体的に]

問2-5 あなたが昨年度に運動・スポーツを行った理由をお答えください。(○印は2つまで)

1 健康、体力づくりのため	5 家族との交流のため
2 楽しみや気晴らしのため	6 障害者スポーツ大会参加のため
3 リハビリテーションや治療のため	7 学校の授業などのため
4 友人・仲間・学校・職場との交流のため	8 その他 [具体的に]

問2-6 あなたは今後運動・スポーツを行いたいと思いますか。(どちらかに○印)

1 思う	2 思わない
------	--------

問2-7 あなたが昨年度に運動・スポーツを行っていない理由をお答えください。(○印は2つまで)

1 身体的に (障がいの程度により) できない	6 運動・スポーツの情報がない
2 経済的にできない	7 一緒に運動・スポーツを行う人がいない
3 活動場所まで移動できない	8 運動・スポーツ自体に興味が無い
4 活動場所がない	9 その他 [具体的に]
5 時間がない	

問2-8 あなたは障がいのある方の運動・スポーツ実施率をさらに向上させるためには、運動・スポーツ施設に何が必要だと思いますか。(○印は2つまで)

1 運動・スポーツ施設そのものの拡充	7 障がい者対応ができる有資格者の配置
2 運動・スポーツ用具の拡充	8 施設利用料金の減免
3 運動・スポーツ施設の駐車スペースの拡充	9 その他 [具体的に]
4 運動・スポーツ施設の利用時間の拡充	10 わからない
5 障がい者スポーツの広報の拡充	
6 運動・スポーツ施設への送迎車の配備	

ご協力ありがとうございました。

【引用・参考文献】

- 1) 神奈川県スポーツ局スポーツ課「スポーツ推進条例」(2017)
- 2) 神奈川県スポーツ局スポーツ課「スポーツ推進計画」(2017)
- 3) スポーツ庁「第2期スポーツ推進計画」(2017)
- 4) 神奈川県立体育センターHP「体育センターの再整備事業」(2017)
- 5) 神奈川県「神奈川県福祉統計」(2017)
- 6) 東京都「スポーツ推進総合計画」(2018)
- 7) 公益財団法人笹川スポーツ財団「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」(2016)
- 8) 東京都オリンピック・パラリンピック準備局「障害者のスポーツに関する意識調査」(2018)
- 9) スポーツ庁委託事業、笹川スポーツ財団「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」(2018)
- 10) 神奈川県立体育センター「神奈川県における障害者の公共スポーツ施設利用状況調査」(2018)